



## コロナ禍で 感じたこと

令和二年度も残りわずかととなりました。新型コロナウイルス感染症が世界的な猛威を振るっています。日本においても予断を許さない状況にあります。いつになれば収束に向かうのか、この原稿を書いている現在も、全く予測ができません。この教育新報が届く頃には、収束しているとよいのですが……。

今年度、「新しい生活様式」という言葉が誕生し、すっかり定着しました。また、一人一人が3密を避けるなどの感染予防対策をとりながら社会活動も始まりました。感染予防と経済再生の両立を目指す新たな局面に私たちは立っています。

学校現場では、これまでのような教育活動を行うことは厳しい状況です。年度当初の休校に始まり、児童生徒への新しい生活様式の指導、学校行事の中止や変更、授業時数確保など様々な対応に迫られました。

例えば、春の運動会を秋に移し、実施時間の短縮や参観者の人数制限、検温、名簿作成などの取組が行われた小学校がありました。また、修学旅行の時期や行先の変更、宿泊を日帰りにするなど、子どもの命を守る安心安全な教育活動が

行われました。授業時数確保のため、夏季休業期間の短縮、時間割表の工夫などにも努めています。

これからの学校は、どのように変わらなければならないのでしょうか。

例えば、オンライン学習の取組が始まっている現場もあります。従来の対面学習のよさと組み合わせた「ハイブリッド授業」という言葉もよく聞かれるようになりました。ICT機器の整備や活用、そのための教職員の研修が急務であるという声も聞かれています。

今、コロナ禍で感じるのは、学校や教育を支えるのは、やはり、地域・保護者に信頼される教職員であり、高度な専門性と豊かな人間性、社会性を備えた力量ある教師の存在です。

六十五年の記念すべき節目を迎えた同窓会。今年度、事業の実施が思うように叶いませんでしたが、白杵勇人会長の「今だからこそ心をついに」して母校のために取り組むことを心に刻み、これからも同窓生同士の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与できる活動を推進していきたいと思えます。



教育学部同窓会副会長  
関川 紀美子

## 花鳥風月

新潟大学教育学部と新潟市教育委員会の連携事業として「学習支援ボランティア派遣事業」が継続して行われている。当校には、今年度2名の学生が派遣されている。

笑顔の素敵な気持ちのいい学生たちである。教室で一人一人の子どもに寄り添いながら支援を行う姿は、微笑ましく、また、有望な教師としての片鱗をうかがわせる。

今年度はコロナ禍によって学びの変更を強いられた年であった。大学では、非対面での講義が行われ、当校でも、年度当初から子どもたちが楽しみにしてきた多くの行事や活動が、縮小・延期、あるいは中止されてきた。我慢し続けてきた子どもたちにとつて、教育学部の学生たちとの触れ合いは、何ものにも代え難い楽しい時間であったに違いない。

きっと2人の学生たちも、人の温かさを感じながら学ぶことの大切さや「学校」という場で子どもと共に過ごせる喜びを感じていたのではないだろうか。

(文責 音田 和行)

情報交換

情報発信

新潟大学  
教育学部同窓会  
ホームページ



大学の  
コーナー

## ちびまる子ちゃんに熱意ある算数・数学教育を

新潟大学教職大学院 教授 垣水 修

さくらももこさんの人気テレビアニメ『ちびまる子ちゃん』のテーマ曲「おどるボンポコリン」の歌詞に、次の一節があります。

♪ いつだって わすれない エジソンは えらい人 そんな常識 タッタタラリラ ♪ (作詞 さくらももこ)

『ちびまる子ちゃん』は、しばしば学校での場面が、とりわけ教室での授業風景が登場するという特徴を持っています。そんなさくらももこさんが歌詞を書いた「おどるボンポコリン」を聞いて、「んウツ？」と思った人はいませんか。

どういうことかといえは、なぜエジソンなのだろうか、ということですが、まずエジソンは確かに偉い人に違いありません。生涯に1300もの発明や技術革新をおこない、発明王と呼ばれています。また「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」といった名言も広く知られていますね。しかし、エジソンが偉い人であることが、子どもたち（ちびまる子ちゃんは、小学3年生の設定です）にとって常識かというところでしょうか。「そんな常識」であるためには、深い理解と幅広い視

野が必要とされるでしょう。

さらにここでは、エジソンが科学者や技術者のなかの、偉い人の代表として取り上げられています。科学・技術に関係する歴史上の偉い人は沢山思い浮かぶでしょうが、皆さんならば誰をその代表として取り上げるでしょうか。私の専門は算数・数学教育です。実は元々は、トポロジーという幾何学の一分野の研究をしていました。なので、科学・技術における偉い人の代表には、数学者が選ばれると嬉しいのですが、「あなたなら、エジソンの代わりに誰を選びますか」と聞かれて数学者を挙げる人は、まずいないでしょう。それはなぜでしょうか。

発明や技術革新の場合には、それによって生活や社会全体が大きく変わってしまいます。電気のない生活、自動車やコンピュータのない社会は、現代社会においては考えられませんね。それらが発明され、社会生活に取り入れられる以前と以後とは、生活と社会の仕組みがまったく変わってしまいました。したがって、それらを発明した人や社会の中に位置付けることに大きく貢献した人は、誰からも偉い人だと認められます。エジソンは確かにそうし

た立ち位置にある人のひとりと言えるでしょう。

一方で数学はしばしば、抽象的でわかりにくい、実生活とのつながりが希薄である、難しい数学を勉強しても、それが何かの役に立つのかわからない、といった批判を受けます。数学の、長年の未解決問題が解けても、生活や社会が変わるわけではないのです。しかし、一つの経験が他の経験に適用できるためには、抽象ということが欠かせません。すべての具体的な経験は、繰り返しながかかないものですが、抽象とは、具体的な経験のある側面を、他の経験の把握に役立つように選び出すことです。あるいは語り直すことを意味しています。

ジョン・デューイは「抽象は、一つの経験が他の経験に役立つための唯一の道である」、「機能的に見ると、抽象とはある構造が一つの経験から解き放たれて、他の経験へと移されることを意味する」と述べ、さらに「抽象は解放である」と主張しました。抽象化によって、後に現れる無数の多様なものごとに対処するための適性が増し、将来出会う予期しなかった課題にも適用することが可能になるわけです。

さらにジョン・デューイは、「数学および科学が教育課程のなかで果たさなければならぬ機能は、それが人類の歴史のなかで果たしてきた機能である」と主張しました。これからの社会においては、急速な社会変化に対応できる適応性と柔軟性および機動性が必要になるとされています。学際的に考察し行動することが求められ、それらの核として科学的思考力、とりわけ数学的思考力が重要な要素として位置づけられるでしょう。子どもたちには、新たな視点を統合させた、世界に対して開かれた新しい知の体系を組み立てていく力が求められています。こうした課題に取り組むことが今後の教育における重要なテーマになっていくことでしょう。既に90年前に、哲学者のアルフレッド・ノース・ホワイトヘッドは、次のように述べています。

「教育は決して容易なわざではない。初等教育を筆頭として、各教育現場の困難を克服する努力は、才能ある人が全力を傾注するに足る課題である。(略) 知性の鍛錬をおろそかにする国の行く末には破滅が待っていると云わなければならない。」

それゆえこれからの教育を担う先生方には、多様なチャレンジに果敢に立ち向かっていただきたいと思えます。そして、ちびまる子ちゃんに熱意ある算数・数学教育を。



# 会員の広場

## 新しい世界



新潟市立関屋小学校

石川 美智

体を動かすことが好きで、学生時代は運動部に所属してきたが、野球に興味をもつことはなかった。どこに送球するといった等、ルールが複雑で分からなかったのだ。それが今、私の週末の楽しみは野球観戦になっている。

長男が小学生の時に、野球チームに入りたいと言出した。私は野球に縁はなかったし、何より保護者の当番が大変というイメージがあったので、随分難色を示した。何か月も親子で問答したが、長男の決意は固かった。最後まで頑張るからやらせてほしいという彼の気持ちに折れる形で入部を決めた。正直、入部して既に何年も経つがルールは今でも分からない。しかし、いつも一緒に練習する子供たちの個性が少しずつ分かり、その母たちと仲良くなる、当番の負担以上に私自身週末を楽しむにできるようになっていた。次男も兄に続いており、私はどっぶりその生活を楽しんでいる。彼等が私に見せてくれた新しい世界に感謝している。

## 無償の愛 おばあちゃん



新潟市立葛塚東小学校

鈴木 久美子

「コロナ禍で、子どもたちと信頼を結ぶためにしていることは何？」赤坂真二先生の講座の中で問われた。素晴らしい実践が並ぶ中、「愛情を言葉で伝える」という些細な習慣を答えた。すると一人の先生が「す、すごい。コツは何ですか？」とつぶやいた。

コ、コツ。コツなんて考えたこともなかった。ふとある記憶が蘇る。それは女子更衣室での出来事。朗らかな笑顔で現れたベテラン先生が「まあすごい♡ここはひな祭りなの♡」と先手必勝パンチライン。女が女子更衣室にいた、ただなのに！存在を丸ごと肯定してもらえることが、こんなにも心を温かくするのかと鳥肌がたった。その時から「居てくれてありがとう」と無償の愛を与えるおばあちゃんになるのが夢になった。だから今から、子どもへの愛情をあの手の手で伝えるのだ。宣言タイムではグループの仲間が次々に言った。「おばあちゃんになりませす！」声出して笑った。

## 感謝の気持ちを忘れずに



阿賀町立津川小学校

五ノ井 沙季

新潟大学を卒業し、教職に就いてから四年目を迎えました。日々、子どもたちと向き合い、同じ職場の先生方から様々なことを学びながら教壇に立つ中で、ふと大学時代を懐かしく思うときがあります。私の大学時代は、特に学科の友人との思い出が多く残っています。教員採用試験が近づくと朝から晩まで机に向かい、互いに励まし合いながら学んでいた日々。一日の半分以上を研究室で過ごし、休憩時間には食堂で他愛もない会話を楽しんでいました。放課後には、特に予定せずとも自然に友人たちと集まり、朝まで語り明かした時もありました。振り返ると、様々な友人との関わりが、今の自分を形作っているのだと再確認しました。

大学の四年間は、自分が思っていた以上に過ぎ去るのが早いものでした。これまでの恵まれた環境のおかげで、今教壇に立てていることに感謝しながら、目の前の子どもたちのために、誠心誠意向き合っていきたいと思えます。

## 日常ではないけれど



五泉市立栗本小学校

古田 直美

今年は、世界中が新型コロナウイルス感染症に振り回されています。そのため、通常行われている伝統的な行事やお祭りなども軒並み中止となっています。新潟市で行われている新潟総踊り祭りもその一つです。

私は、二十年近くこの祭りに関わってきました。毎年、この祭りが生活の一部となってきたので今年は何かが足りない夏でした。きっと他の祭りやイベントに関わった人も同様に感じていることでしょう。そんな中で実行委員会のみなさんは、「来年に向けて今できることを」と最大限の努力をしてくださいました。

同じことは学校生活にも表れています。いつもやっている行事などが中止や変更になる中、子どもも職員も工夫をして楽しい学校生活を過ごしてきました。まだ先は見えませんが、これからもみんなで知恵を出し合って学校生活を過ごしていきたいものです。

# 会員の広場

## 五年を振り返って



長岡市立下川西小学校

丸山 萌子

新潟大学を卒業し、教職五年目となった。最初の勤務校は特別支援学校で、個性豊かな子どもたちや先生方と共に、学び多い充実した三年間を過ごすことができた。子どもとじっくり向き合い、小さな成長を喜び合った日々は私にとってかけがえのないものとなっている。

二校目は小学校での勤務となり、初めて通常学級の担任を経験した。校種が変わり、初めてのことだらけの日々に戸惑い悩みながらも、素直な子どもたちや先生方に支えられ、新鮮で有意義な日々を送ることができた。

二年目となった今年度は、特別支援学級を担任している。授業を通して「算数のテスト百点取れた!」「国語がちよっと好きになってきたよ」と笑顔いっぱい伝えてくれる子どもの姿から、特性に合わせた学習の仕方や環境の中で力を伸ばしていく特別支援教育の大切さを改めて実感している。

まだまだ未熟な私であるが、子どもと共に日々成長できる教員でありたい。

## 現在、そして未来へ



柏崎市立内郷小学校

土田 宏美

新潟大学を卒業してから、十五年が経ちました。卒業してからほとんど大学には縁がありませんでしたが、先日新潟市に行った帰りに、ふと思いい立ち大学へと足を延ばしました。西門から見える白い教育学部棟（私の在学中は教育人間科学部でした）は、十五年前と変わらず、懐かしい気持ちがかみ上げてきました。毎週のように集まって、他愛のない話をしたこと、教員採用試験に向けて共に勉強したこと、卒業論文が終わらず悪戦苦闘したこと：大学の日々は、忘れられない思い出です。現在、仕事と育児の両立で日々奮闘していることや、大学で専門に学んでいた社会学が今でも大好きで研究に励んでいることなど、十五年前の自分には想像もできませんでした。まさか新型コロナウイルスが流行して、生活が一変することになるとは。大学を卒業して二十年后、三十年後の自分を想像しながら、日々を大切に過ごしたいです。

## 特総研のこと



新潟市立荻川小学校

板垣 菜穂子

三年前、ことばの教室担当を目指して、国立特別支援教育総合研究所へ二か月の研修に行くことになった。家族をおいて横須賀へ、突然の決定だった。新潟大学に通っていた頃は自宅生だったので、寮生活は初めて。まさか五十を過ぎてこのような体験が出来るとは人生分らないもの。勉強できる喜びを感じ、県外の友人も出来た。新潟の良さを再確認することも出来た。

研修は特別支援教育全般に始まって、言語教育に関する専門的なことまで、トップの先生方に講義をしてもらったことばの教室に措置されるお子さんの主訴は三つ、構音障害、吃音、言語発達の遅れ。現在はことばの教室の担当となつて、日々来室するお子さんから学ばせてもらっている。

ことばの教室は一对一のお付き合い。来たときよりも笑顔が増える通級教室でありたい。人との接面を大事に、「それでいいよ、大丈夫」と、努力している人に言ってもらいたい。

## 何気無い日常に



新潟市立岩室小学校

保坂 章夫

令和二年二月半ば、関東の大学に在籍する娘が春休みで帰省した。当時は三月半ばにはまた大学に戻るつもりだったが、突然の緊急事態宣言で戻ることができなくなりました。その後、大学からのオンライン授業開始連絡。しかし、短期間の帰省予定でいたため、教科書、パソコン、実習道具等が一切ない現状。感染拡大防止のため、県をまたぐ移動自粛の中、自家用車でアパートに行き、必要最低限の荷物を積んでとんぼ返りを決断。しかし、学校教員として、職場内感染だけは絶対に避けなければならなかったため、人との接触・交わりを皆無とし、できる限りの短時間での往復計画で出発した。往復約九時間の間、人との接触はガソリンスタンドでの給油一回のみ。アパート滞在時間一時間のミッションの中で、教科書等の奪還を果たした。娘も今は、感染に気を付けながらも十二月に始まった対面授業に参加している。学校内でも徹底した感染に努めながらも、早くマスクのいらぬ日常になつて欲しいと願うばかりである。

毎年恒例「同窓生の集いの報告」に代えて

特別企画  
**先輩を訪ねて**

新潟こども医療専門学校

非常勤講師 佐藤 重勝さん

(第十五代 同窓会長)

研修部長 小林 由希恵



**小林**

「こども医療専門学校ではどのような授業を担当されているのですか？」

**佐藤**

「今年は、学校・学級経営論の授業を担当しています。隔年で算数指導法なども担当しています。教員志望の学生は少数なので、教員を目指していない学生にも、興味・関心を持って学んでもらうために、身近な生活と関連付けるなど、工夫しています。」

**小林**

「佐藤さんが現在も教育に携わられておられることは現場教員として心強いです。佐藤さんは、平成二十二年から二十四年まで同窓会長をお務めになられました。同窓会に関わっておられた頃のエピソードをお聞かせいただけますか？」

**佐藤**

「教育学部が教育人間科学部と名称を変更した時期がありましたね。その時期に、組織部員をしていたのですが、同窓会の名称をどうするか議論しました。私は、卒業したのは「教育学部」なのだから、変更する必要はないという考えでした。二つの名称を併記する案や「教育人間科学部同窓会」とする案がありました。結局、教育人間科学部時代は同窓会も「教育人間科学部同窓会」となりました。その後、大学の名称変更に伴って「教育学部同窓会」に戻り、現在に至っています。」

その他には、組織部長だった頃に、会員の確認をし、名簿作りをしました。当時の会員全員に所在確認の文書を送付しましたが、段ボール箱一つ分も、宛先不明で返って来ました。

また、組織部長、同窓会長と務める間に、永年会員制についても議論しました。その際、現会員のこれまでの会費の納入額との関連で、不公平感を生まないようにするにはどうしたらよいかなども話題になりました。」

**杉山(事務局)**

「事務局では、佐藤さんが作成に関わられた名簿を引き継いで、現在も会員情報の管理をしています。二〇〇一年の名簿が基になり、同窓会の組織が一層固まったというわけですね。佐藤さんが、現在の基礎を作ってくださいました。」

**小林**

「まさに、同窓会にとつては、組織が大きく変わる時代だったのです。コロナ禍もあり、今年度は同窓会も事業を縮小していますが、今後の同窓会にどのようなことを期待されますか？」

**佐藤**

「今は会長をはじめ役員皆さんのお陰で、同窓会内部の基盤がしっかりしています。そのため、学生に対する支援にも重点を置くことができるようになりました。良いことだと思います。全学同窓会に対するサポートも良い方向だと思えます。コロナ禍で学生も困っている。いつ終わるか分からないからこそ、そういうところに支援ができるといい。同窓会の目的は、会員の親睦と母校に対するサポートであり、ようやくその二つの目的が達成されつ

つあります。」

**杉山(事務局)**

「現在は、教職サポートセンター及び学部や大学院の先生方とも連携しながら、教員を志す学生を支援しております。」

**小林**

「最後に、それぞれの持ち場ががんばっている同窓生へエールをお願いできますか？」

**佐藤**

「現役の先生方が、今までにない状況の中でがんばっておられることに感謝しています。学力面での影響も心配されており、大変だと思いますが、授業の質を高めて、取り組んでもらいたいです。また、学校クラスターを生まないためにも、家庭や地域との連携を密にして、くれぐれも健康に留意してほしいです。」



今回も同窓会事務局杉山、研修委員長小林の二人で訪問・インタビューさせていただきました。穏やかな語り口の中に、教育や同窓会への熱い思いを感じ、勇気と元気をいただきました。また、現在の同窓会を築いてくださった佐藤さんをはじめとする先人の思いにふれ、今後の同窓会の活動についても考えるきっかけとなりました。改めて佐藤さんに感謝申し上げます。



(以下敬称略)

第一七九号の研修部特別企画「先輩を訪ねて」について、多くのご感想をお寄せいただきました。今年度は会場に一堂に会する研修会は叶わなかったものの、紙面を通じて同窓生の皆様とつながることができ、嬉しく思っております。そこで、第二弾として、第十五代同窓会長 佐藤重勝さんを訪ねて、新潟こども医療専門学校を訪問しました。佐藤さんは、新潟市立亀田小学校長を定年退職された後、江南区教育支援センター指導主事、阿賀野市教育委員会学校教育課教育センター長などを経て、現在は新潟こども医療専門学校で、教員や保育士などを志す学生の指導に当たっています。授業が終わった後の佐藤さんからお話を伺いました。佐藤さんは、新潟大学教育学部第十八期卒業生です。

学校紹介

①

「支持的風土づくりと地域連携で自己肯定感を高める」  
新潟市立東曾野木小学校

当校は、昭和五十四年に旧丸瀧小学校と曾野木小学校の一部を校区として誕生した学校です。一昨年、創立四十周年を迎えました。

宅地造成による人口増により創立当初には約千人を数えた児童数も、現在は二百名足らず。小規模校の仲間入りをしました。しかし、その分小回りのきく小規模校のよさを生かし、一人一人に眼の行き届いた温かい学校づくりに取り組んでいます。

一 支持的風土を醸成する取組

学校づくりの基盤となっているのが、数年前から取り組んでいる支持的風土を育む活動です。主な取組は、「ふわふわ言葉カード」と「ほめ言葉のシャワー」の二つです。

「ふわふわ言葉カード」は、友達の良いところや感謝の気持ちなどをカードに書き、渡し合う取組です。最初はクラスの友達から始まりですが、やがて学年を超えて出したり、先生やお世話になつて地域の方に出したり、対象が広がっていきます。また、先生や保護者・地域の方からも書いていただき、個別に渡したり、教室や校内に掲示したりすることで、子供たちの自

己肯定感を高めています。

「ほめ言葉のシャワー」は、学級活動の時間などを利用し、ある一人に対してクラス全員が、順によいところや頑張っているところを伝えていく活動です。

どちらも全校で数年間続けているお陰で、子供たちも抵抗なく、すぐに相手のよいところを見つけることができるようになっており、それが温かな人間関係づくりに役立っています。



二 地域素材を生かした総合学習

また、地域での学習やボランティアの助けを借りた授業・活動を進める中で、コミュニケーション能力を高めることにも力を入れています。

① 四年・鳥屋野瀧の学習

四年生は昨年度より、学校から二キロ弱のところにある鳥屋野瀧をテーマに総合学習を進めています。鳥屋野瀧は校区外ということもあり、これまで学習対象とはしてきませんでした。し

かし、昨年から四年生で調査・探求活動を行っています。今年、鳥屋野瀧につながる清五郎瀧で栽培されている空芯菜という野菜に焦点を当て、NPO団体の助けも借りながら、環境学習等に取り組んでいます。

九月には、近くにあるJA新潟市の直売所で、児童が空芯菜販売の手伝いを行うなど、とても意欲的な姿を見せています。



② 六年・放課後ふれあいスクール

六年生は、学校で週に三回実施されている放課後ふれあいスクールをテーマに取り上げます。新潟市で平成十九年に二校からスタートした、放課後ふれあいスクール。その内の一つが当校でした。

六年生は毎年冬、総合学習の単元で、そのスタッフと一緒に運営に取り組みます。「子供たちのために」「地域のために」という、スタッフの熱意を感じながら、自分たちでも活性化の方策を考え取り組めます。

このほかどの学年も地域と連携した取組を進める中で、人とのつながりの大切さを実感し、自己肯定感とコミュニケーション能力を育んでいます。

(文責 校長 川又健司)

令和二年度 会務報告

令和二年

入学式・保護者懇談会 (中止)

4・3

4・16

5・9

6・8

7・20

8・24

9・19

10・17

1・21

2・20

2・27

3・23

【評議会に向けての議案審議、決定】

【令和元年度会務報告・決算報告】

【令和二年度活動の重点・専門部活動計画・役員及び予算案承認】

【書面表決による審議】

【教育新報「第179号」発行カミングホームデー (延期後中止)】

【第46回同窓生の集い (中止)】

【全学同窓会交流会 (中止)】

【令和三年 教育学部教員・職員と同窓会との懇談会・懇親会 (中止)】

【教育新報「第180号」発行第二回本部会 (中止)】

【卒業式・祝賀会 (朱鷺メッセ・東映ホテル新潟)】

学校紹介

②

本物に触れて感性を磨く

乙♡チャレンジ♡

胎内市立乙中学校

胎内市立乙中学校は、胎内市の西北部に位置し、荒川と胎内川に挟まれた楡形山脈の扇状地下流域を学区にしています。学区は、行基が開山したと伝えられる乙宝寺や、水芭蕉群生地、イバラトミヨ生息地などがあり、歴史・自然環境に恵まれた地域です。

地域に飛び込み、本物に触れることで、生徒は感性を磨くことができます。また、多くの地域の人との出会いや地域での体験活動は、これからの人生を豊かにする貴重な財産となります。

当校では、より豊かな学びの成果を得るために、学校と地域が連携・協働して様々な生徒の学びの場を創っています。

一 自然体験♡カヌー教室

中学生のカヌー体験実施は県内では当校が唯一であり、ふるさとの山を背景に、校区内で貴重な体験をすることができます。地元の県少年自然の家の方々から、中学生に合わせたメニユーを組んでもらい生徒たちはいつも大満足です。

二 芸術鑑賞

胎内市美術館での芸術鑑賞では、主に胎内市にゆかりのある作品を鑑賞させてもらっています。今年は、胎内市出身のイラストレーターの方の特設展を鑑賞しました。色彩の美しさを鑑賞するだけでなく、実際にカラーボールペンを使って、作品の模写にも挑戦しました。学習を進めながら、郷土の芸術家に対する誇りを深めていました。



三 地域貢献活動♡清掃活動

地元の名刹「乙宝寺」で清掃活動を行っています。生徒は「掃除も修行の一つ。身の回りをきれいにすると心もきれいになる」という住職様の言葉を受け止め、約2時間、黙々と寺院や境内の清掃に取り組みます。「いつもお

世話になっている場所なので、役に立つことができうれしい。」「大変だったけど、楽しかった。あらためて掃除の大切さに気付くことができた。」という感想から、生徒の達成感や充実感を伺うことができます。

このように生徒は様々な活動を通して、胎内の豊かな自然や歴史、文化等を再発見し、郷土愛を強くするとともに、地域を深く理解し地域の人と共に活動しようとする意欲が湧いています。



今年度からコミュニティ・スクールが本格実施されました。コミュニティ・スクールは地域の宝である子どもたちをより良く育てるための仕組みです。地域と目指す子どもの姿を共有し、フェイスoffフェイスで本音で語り合い、「乙♡チャレンジ」のスローガンのもと、地域のヒト・モノ・コトと融合させた持続可能な教育課程を編成し、地域とともに歩み続ける学校として、めざす生徒像の実現に向けて取り組んでいきます。

(文責 教頭 小出祐一)

事務局だより

会員の皆様への御礼とお願ひ

学校会員の皆様にはコロナウイルス対応で大変な中、会費の取りまとめ及び名簿の作成・提出大変ありがとうございました。多くの皆様からホームページ及びメールを活用頂き、デジタル化が確実に進展した一年となりました。新年度も更なるご協力をお願ひ申し上げます。

つきましては、新年度に向けて三つほどお願ひがあります。

- ① 同窓会ファイルを作成するなど確実な引継ぎをお願ひします。
- ② 同窓会のホームページの一層の活用をお願ひします。
- ③ 郵送費の削減及び迅速な事務処理にむけて、期限の厳守とホームページ及びメールの一層の活用をお願ひします。

永年会員及び個人会員の皆様にも温かく支えられていることに感謝申しあげます。この教育新報が確実にいつまでもお届けできるように住所等が変わりましたらお知らせください。本当にありがとうございます。

学校紹介

③

「地域とともに自分らしく  
生活する子ども」を育む

小千谷市立総合支援学校

小千谷市立総合支援学校は小千谷市の南部に位置しています。塩殿地区に校舎があり、近くには、山本山や信濃川を望む、自然豊かな場所です。

平成二十六年に開校し、今年で七年度になりました。小学部・中学部・高等部が設置されており、今年度は、全校児童生徒四十五名で学習しています。「地域とともに 自分らしく 生活する子ども」の教育目標のもと、教育活動を展開しています。

一 地域とともに歩む学校

地域の教育的資源を生かし、教育活動を展開する「地域とともに歩む」ことを、開校以来大切にしています。各学部の児童生徒の発達段階や学習の積み重ねを踏まえて、「地域から学ぶ」「地域と共同する」「地域に貢献する」という三つの視点から各学部に応じた教育活動に取り組んでいます。

二 各学部ごとの取組

小学部は、「地域から学ぶ」ことを大切にしています。地域の畑でサツマイモを育てる体験では地元の方から植え方を教わり、一人一人が苗を植えま

した。秋には収穫したイモでスイーツポテトを作り、おいしく食べました。老人福祉施設を訪問し、日頃の学習成果を発表する活動も行っています。頑張りを認めていただくことで、成功体験を積み上げていきます。

中学部は、「地域と共同する」ことを大切にしています。学校の畑でローゼルの花を育て、実を収穫しました。その実を材料にして、地域の菓子店から作っていただいたパウンドケーキを学習発表会で販売しました。

また、小千谷には、錦鯉、牛の角突き、小千谷縮など、特産品等があります。地域の良さを学ぶことで地域を大切に思う気持ちを育んでいます。

高等部は、「地域に貢献する」ことを大切にしています。学校で学んだ技術を基に公民館を清掃したり、施設で出張喫茶サービスや作業製品販売を行ったりしています。地域の方と触れ合う活動となっています。

さらに、企業や福祉施設で年二回、実習を行っています。地域で働く・暮らすことで、今の自分に必要な力を考え、体験を通して学んでいます。地域の方から生徒たちの取組を評価していただく機会にもなっています。

三 十二年間の連続した学び

当校の児童生徒は、体験を通して学ぶことが多くあります。高等部卒業後ほとんどの生徒は小千谷市内で生活します。地域で「働く」「暮らす」「楽しむ」生活を送るためには、「地域とのつながり」が大切です。新しい生活様式を基本としながら、地域で安全に学べるよう学習活動を工夫していくことが必要と考えています。

小学部・中学部・高等部という十二年間の学びの連続性を強みに、児童生徒が、地域で生きる力を育めるよう、地域のご協力のもと、教育活動を展開していきたいと思います。

(文責 教頭 近藤奈美子)



編集後記

今年度、同窓会開催行事の大半が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむなく中止となりました。本来であれば、教育新報を通して、新潟大学教育学部同窓会員の皆様に、カミングホームデイや同窓生の集い等の様子をお伝えするところですが、それができず、とても残念に思っております。また同時に、紙面を彩るはずであった数々の行事報告企画が無くなつてしまった為、正直、紙面構成に大変苦慮いたしました。

しかし、そんな状況の中、たくさんの方から素晴らしいアイデアを寄せていただき、また、全ての方が快くご寄稿くださりましたこと、心から御礼申し上げます。

おかげさまで、教育新報一七九号、一八〇号ともに滞ることなく、また、これまでに無かった素晴らしい企画でお届けすることができました。「災い転じて福となる」ではありませんが、今回の新企画も大切にしながら、これからも読み親しまれる教育新報をお届けしていきたいと思っております。

(文責 広報部長)